

## 国立大学法人小樽商科大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

### 1 全体評価

小樽商科大学は、唯一の国立商科系単科大学として、経済社会の発展と地域社会の活性化に貢献し、ひいては文化・人類の発展に寄与し得る研究と人材の育成を推進することを使命として、小樽商科大学憲章を制定するなど、実学重視の伝統と商科系単科大学としての特徴を活かした教育研究の充実に努めている。

中期目標期間の業務実績の状況は、すべての項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、地域の課題、歴史・文化を取り扱った授業科目の開講、基礎から応用・実践に至る積上げ方式のカリキュラムの実施、オープンユニバーシティ等による高大連携の推進、グレード・ポイント・アベレージ制の導入、学生アンケートや教員相互の授業参観等を踏まえた授業改善、履修指導マニュアルの作成による修学指導の充実、「キャリア・デザイン10年支援プログラム」によるキャリア教育の実施等の取組を行っている。

研究については、受託研究、共同研究の受入れに関する学内ルールの見直し、ユーザーエクスペリエンス・イノベーションに関する研究及びビジネス創造センター内への寄附研究部門の設置による産学共同研究等の取組を行っている。

社会連携・国際交流等については、大学院専門職学位課程との連携による3箇所での「ビジネス相談」の実施、「大学発知財の商業化戦略」研究成果の公開、地域ブランド振興等の取組を行っている。

業務運営については、学長、理事、副学長及び事務局長により構成される「五者懇談会」を設置し、執行組織が学長の方針に迅速に対応できる体制を整備したほか、チーム制導入に向けた事務組織の再編を行うなど、中長期を見据えた改革が進捗している。

一方、中期計画の事項に対して年度計画を設定することが適切と思われる事項が多く見受けられるが、中期目標・中期計画に対応した年度計画を設定し、中期目標達成に至る道筋を社会に広く示しつつ、計画的な業務の推進に努めることが期待される。

財務内容については、科学研究費補助金に関する申請率の目標値設定のほか、申請への傾斜配分予算の配分ポイント見直し及び学内説明会を開催するなどの取組により、科学研究費補助金の申請件数の増加を図っている。

情報の提供については、市民と大学の交流の場として小樽駅前プラザ「ゆめぽーと」を設置し、大学情報発信基地としたほか、学長・副学長との茶話会等のイベントを通して、各種大学情報等を積極的に市民に公開・提供している。

## 2 項目別評価

### I. 教育研究等の質の向上の状況

#### (I) 教育に関する目標

##### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

##### 2. 各中期目標の達成状況

###### (1) 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

###### (2) 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（16項目）のうち、5項目が「良好」、10項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

###### (3) 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

【判断理由】 「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8項目）のうち、6項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### (4) 学生への支援に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

#### 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画「イ. 卒業後の進路等に関する具体的目標の設定：b. 北海道における経済社会の活性化及び発展に貢献できる人材を育成する」について、学士課程において、地域の課題、歴史・文化を取り扱った授業科目を開講したことは、学生の地域貢献活動が活性化し、北海道における経済社会の活性化に貢献できる人材育成が実質的に機能しているという点で、優れていると判断される。
- 中期計画「ア. 修了後の進路等に関する具体的目標の設定：a. 新規事業を創造し、既存企業の変革を担いうる人材を育成する」について、大学院専門職学位課程において、基礎から応用・実践に至った体系的な積上げ方式のカリキュラムを実施していることは、身に付けた知識・技能・スキル等が職場で役立っていると修了生が実感しており、専門的職業人の育成が実質的に機能しているという点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「アドミッション・ポリシーを周知するとともに高校側との意思疎通を図る」及び「入学者選抜方法の点検評価及び改善の取り組みを促進する」としていることについて、毎年、入学試験結果の分析を踏まえたアドミッション・ポリシーを再検討し、その実現を図るために入学試験方式の改変、さらには札幌、旭川でのオープンユニバーシティ及び出前授業等により高大連携を推進していることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「学生の「授業改善のためのアンケート」や授業担当教員からの要望等を活用し、授業改善に生かす取り組みを進める」及び「より客観的で厳密な評価を与えるため、現4段階である成績評価の細分化を進め、GPA制度の導入を図る」としていることについて、「授業改善アンケート」に基づき、学士課程における授業形態・学習指導方法の改善、及び成績評価の細分化を実施し、学科レベルで授業改善に努め、改善計画の公表制度を導入したこと、またグレード・ポイント・アベレージ制（GPA制）の導入等により学生の自主的な学習をバックアップしていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「情報処理センター内のみならず、既存の講義室からもネットワークにアクセスが可能となるよう情報コンセント等の整備を行う」及び「e-ラーニングを利用する多様な学習形態の実現に向けてハード及びコンテンツ作成のための環境整備を行う」としていることについて、パソコンの設置等ゼミ室での自習環境を整備したこと、研究棟・講義棟の26か所に無線LANのアクセスポイントを配備したこと、大学院専門職学位課程に e-learning システムを構築したことは、情報ネットワークの整備

を前進させた点、また社会人を対象とした専門的職業人の育成に資する学習環境を整備した点で、優れていると判断される。

- 中期計画で「授業改善のためのアンケート」調査を毎年実施し、調査結果を分析して教育活動の問題点を把握する」、「教育活動に関する自己点検評価を行い、評価結果を教育の質の改善のためにフィードバックするシステムを検討する」及び「FD 活動を通じて、教授法改善に対する教員の意識の向上を図る」としていることについて、学士課程において、学生アンケートや教員相互の授業参観等を踏まえた授業の改善を実施し、教養教育に係る「知の基礎」系科目の組み替え、また学科ごとの授業改善目標を設定していることは、教育の改善が実質的に機能している点で、優れていると判断される。また、大学院専門職学位課程においても、学生アンケート、教員の相互評価を実施し、教授方法の改善につながっており、教育の改善が実質的に機能している点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「履修指導教員（1、2年次生担当）が修学指導担当員と密接に連携し、履修方法等も含め、学生との面談を日常的に行うなど修学指導体制の充実を図る」としていることについて、1・2年次の学生の履修指導を充実させ「履修指導マニュアル」を作成し、履修指導教員を大幅に増員したことは、きめ細かな修学指導につながっている点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「職業観の育成やキャリア教育の充実を図る」としていることについて、「キャリア・デザイン10年支援プログラム」を立ち上げ、学生の大学在学中に加えて、入学前3年間、卒業後3年間についても、高等学校、同窓会、民間事業者の協力を得てキャリア教育を実施していることは、先進的な試みであり、学外の組織と有機的に連携している点で、優れていると判断される。

（改善を要する点）

- 中期計画で「研究型大学院において、教育上、有益と認められる場合には、専門職大学院との単位互換を認める」としていることについて、単位互換がまだ措置されていないことから、改善することが望まれる。

（特色ある点）

- 中期計画で「新規事業を創造し、既存企業の変革を担う人材を育成する」及び「地域経済振興政策を担う自治体職員等を育成する」としていることについて、学士課程では地域や企業と連携を図り、正課教育としてインターンシップを運営したほか、大学院では札幌駅前にサテライトを設け、社会人の受入れを実施するなど高度専門職業人の育成に努めたことは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「高度な実践性・国際性を備えた教育の導入を促進する」、「専門職大学院の設置と併せて大学院の改組拡充・整備を図る」及び「ビジネス・プランやインターンシップ等の実践科目を相当数配置するとともに、通常のクラスにおいても、ケース・メソッドやケース・スタディなど実践的な教育方法を取り入れる」としていることについて、実践的商学教育を進めるという教育理念に基づき、学士課程においてインターンシップの導入や実社会と密接に関連した科目を開講したほか、大学院におい

ては、専門職学位課程を開設しビジネス・プラン、ケース・スタディ等により実践的な教育を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

- 中期計画で「エ. 教育に必要な図書館の活用・整備に関する具体的方策 e. 障害者・高齢者等の利用に配慮した施設改善を進める」及び「f. これまで進めてきた地域への開放政策を一層促進する」としていることについて、学外の高齢者・障害者の利用に配慮した図書の宅配サービスの実施のほか、小樽駅前の「ゆめぽーと」等学外施設における図書の貸出・返却サービスを実施していることは、積極的に地域との連携を重視し、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「② 生活相談・就職支援等に関する具体的方策：オ. 学生の自主的活動の支援体制の確立と積極的な方策を講じ、課外活動の活発化を促す」について、「小樽商科大学グリーンヒルプロジェクト」により地域社会との文化的・社会的連携に寄与する学生の活動に対し、支援していることは、特色ある取組であると判断される。

## (II) 研究に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

### 2. 各中期目標の達成状況

#### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### (2) 研究実施体制等の整備に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

#### (優れた点)

- 中期計画で「産学連携の強化を図るため、学内の規制緩和について検討する」としていることについて、受託研究・共同研究の受入れに関する学内ルールを見直し、寄附講座制度、客員研究員制度など産学連携のための体制整備をおこなっていることは、共同研究の件数、金額ともに増加しており、実質的に機能している点で、優れていると判断される。

#### (特色ある点)

- 中期計画「目指すべき研究の方向性及び大学として重点的に取り組む領域」及び「ビジネス創造センターを中心に産学官連携を促進し、北海道経済の活性化及び産業の競争力強化に貢献する」としていることについて、社会が提起する諸課題に対し実践的な解決策を探るという実学の精神に基づき、ユーザーエクスペリエンス・イノベーションに関する研究等を推進したほか、産学官連携の強化を図るという方針の下に、ビジネス創造センター内に寄附研究部門を設置し、企業再生に関する産学共同研究を実施していることは、特色ある取組であると判断される。

### (III) その他の目標

#### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

##### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

##### 2. 各中期目標の達成状況

###### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

[評価結果] 中期目標の達成状況がおおむね良好である

[判断理由] 「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（9項目）のうち、1項目が「良好」、8項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

##### 3. 優れた点、改善を要する点、特色ある点

(優れた点)

- 中期計画で「ビジネス創造センターが中心となって、地域社会の組織や個人等が抱える課題やアイデアを事業に具体化することを支援する「ビジネス相談」に係る実施体制の一層の充実を図る」としていることについて、札幌商工会議所の会員に対するアンケート、大学主催の産学連携研究成果報告会やビジネスエキスポ等でのパンフレット配布等により広報を行い、札幌サテライト、小樽駅前プラザ「ゆめぼーと」、ビジネス創造センターの3箇所で大学院専門職学位課程と連携して実施するなど、積極的に活動を進めていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「これまで蓄積された大学発ベンチャー企業創出のノウハウを集約して、起業に関する学問的知見として広く公表し、教育研究へのフィードバックを図る」としていることについて、委託研究「大学発知財の商業化戦略」の研究成果を取りまとめ、ウェブサイトで公開し、大学院専門職学位課程の講義（「ライフサイエンスビジネス創造」）資料として活用していることは、教育研究へのフィードバックが積極的に活動を進めている点で、優れていると判断される。

(改善を要する点)

- 中期計画「大学への国際開発協力に関するコンサルティングを実施する」については、国際開発協力に関するアドバイス体制を整備しているが、コンサルティングの実績が上がっておらず、十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。

(特色ある点)

- 中期計画で「北海道地域における新産業・事業の創出と成長支援を行うために大学発ベンチャー企業の創出と成長支援を今後とも継続する」としていることについて、ビジネス創造センターを軸とした、小樽ガラスのブランド化戦略及び小樽観光大学校等の参画は、地域ブランド振興における大学としての特性を生かした特色ある取組であると判断される。

## II. 業務運営・財務内容等の状況

### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

- ① 運営体制の改善
- ② 教育研究組織の見直し
- ③ 人事の適正化
- ④ 事務等の効率化・合理化

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 学長、理事、副学長及び事務局長より構成される「五者懇談会」を設置し、執行組織が学長の方針に迅速に対応できる体制としたほか、学長の諮問に基づき、個別の課題ごとに調査検討する「学長補佐」及び評価全般の業務を担当する「副学長」職を設置するなど、機動的・戦略的な大学運営を目指した学長のリーダーシップを補佐する体制を整備している。
- 学長裁量経費を「教育研究活性化」、「教育研究環境改善」及び「地域社会貢献推進」の 3 区分に重点配分し運用するほか、学外及び学内での収入を伴う各種事業等を実施した部局等に対して、収入を傾斜配分するなど、戦略的・効果的な資源配分を実施している。
- 「小樽商科大学事務組織・機能の再構築基本方針」に基づき、チーム制導入に向けた再編を行うなど、事務の効率化・合理化を図っている。
- 教員の人事評価システムの構築と実施について、教員人事評価ワーキンググループにおいて評価項目案を策定するなどの取組が行われているが、評価システムの試行に向けた検討を進めるにとどまっており、教員がインセンティブを持ち続けることのできるシステムを構築するとした中期目標の達成に向けて、より一層検討を進めることが期待される。
- 中期計画に基づき女性教員の割合の目標値を 20%と設定し、平成 15 年度から平成 19 年度にかけて 13.6%から 15.9%に増えていることは評価できるが、引き続き、目標値の達成に向けて女性教員の採用を促進することが期待される。
- 中期計画の事項に対して年度計画を設定することが適切と思われる事項が多く見受けられるが、中期目標・中期計画に対応した年度計画を設定し、中期目標達成に至る道筋を社会に広く示しつつ、計画的な業務の推進に努めることが期待される。

**【評定】** 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 34 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

### (2) 財務内容の改善に関する目標



- ① 外部研究資金その他の自己収入の増加
- ② 経費の抑制
- ③ 資産の運用管理の改善

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 科学研究費補助金に関する申請率の目標値設定のほか、申請への傾斜配分予算の配分ポイント見直し、情報収集の実施及び学内説明会等の組織的な取組を実施した結果、平成 19 年度における科学研究費補助金の獲得額は 4,610 万円（対平成 15 年度比 1,960 万円増）、受託研究、共同研究及び奨学寄附金による外部資金は 4,520 万円（対平成 15 年度比 610 万円増）となっている。
- 運営費交付金事業、外部資金及び施設整備の 3 つの予算区分を柱とした「第 1 期中期計画期間中における財政計画」を策定し、これらに基づき毎年の予算編成、点検評価を実施している。
- 同窓会（緑丘会）と共同で有料による各種資格取得支援講座を開講するなど、その受講料の一部を収入として獲得し、講習会等の事業実施主体に対し傾斜配分を実施している。
- 秘書業務、情報処理業務、環境整備業務、屋内プールに関するすべての維持管理業務の外注化を図るなど、管理的経費の抑制に努めている。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

（理由）中期計画の記載 17 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ① 評価の充実
- ② 情報公開等の推進

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 教育研究・業務等の自己点検・評価結果に対しては、表面化された改善点を基に評価実施主体が改善計画を立案し、実施された改善結果を大学評価委員会にフィードバックするシステムを構築している。
- 市民と大学の交流の場として小樽駅前プラザ「ゆめぼーと」を設置し、大学情報発信基地としたほか、学長・副学長との茶話会等のイベントを通して、各種大学情報等

を積極的に市民に公開・提供している。

- 「一日教授会」を開催し、教員や学生による地域貢献活動をはじめ、様々な大学情報を市民へ提供している。

**【評定】** 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 7 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- ① 施設設備の整備・活用
- ② 安全管理

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 施設有効利用及び地域貢献の観点から、札幌サテライトの学外貸し出しの開始及び学外利用者の利便性の向上のため利用状況・設備等詳細情報をウェブサイトへ掲載している。
- 学生の生活面・学習面での相談、苦情等を早期に発見するために学生生活支援セミナー等を開催したほか、平成 19 年度からは新たに「学生消費相談室」を設置し、悪徳商法に関する相談を定期的に受け付けるなど、学生の安全確保及び安全意識の啓蒙を図っている。
- 大学会館の空きスペースを活用した喫茶の整備や附属図書館への大学院自習室の整備等、教育研究スペースの相対的な有効利用への取組が進められている。
- 安全管理・事故防止のために、「危機管理規程」、「危機管理ガイドライン」等を策定したほか、事故、疾病等の緊急度の高い危機事象に対応した教職員用マニュアル及び学生向け「学生のための安全マニュアル」を作成している。

平成 16～19 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 研究費の不正使用防止のため、従前から内部監査を実施しているが、新たに制定した運用マニュアルに基づく一部の取組（内部監査又は外部監査の実施）が平成 19 年度中に実施されていないことから、研究費の不正防止に向けた継続的な取組が求められる。

**【評定】** 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(理由) 中期計画の記載 14 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められるが、研究費の不正使用防止に向けた一部の取組が措置されていないこと等を総合的に勘案したことによる。